

## 十年一昔

「十年一昔」という言葉があります。「世の中の移り変わりが激しいことのたとえ。年月の区切りとして十年以前は昔のように思われるということ」です。また「十年一日」という言葉もあります。「長い期間同じことを繰り返していること」を意味します。

さて、皆さんは十年前のことを振り返ったり、十年後の姿を想像したことはありますか。十年前は小学校低学年～中学年の頃、十年後は多くの人々が就職して職場に慣れてきた頃になるでしょう。もしかしたら十年後に結婚して子どもがいる人もあるかもしれません。一年の変化はあまり感じなくとも十年となると大きな変化や成長がみられるはず。特に歳をとるにつれ時間の経過が早く感じられるといいます。多分今までの十年間よりもこれからの十年間の方が早く過ぎていくことでしょう。しかもこれからの十年は人生を方向付ける上で極めて重要な年月となると思います。そう考えると、今までの十年を振り返りつつ、今後の十年を考えてみることの意義は大きいと言えます。

ところで、今から十年前の日本はどういう状況だったのでしょうか。2006年の出来事を調べてみると次のようなことがありました。第一次安倍内閣成立、改正教育基本法成立などです。景気は平成不況以来の「失われた十年」と呼ばれた不況期から回復したものの、格差が拡大して「実感なき景気回復」などと呼ばれた時期でした。

一方、この後の十年間日本は大きな出来事を幾つか経験しました。2009年民主党政権成立、2012年自民政権成立。2011年東日本大震災、福島第一原発事故、2012原発停止。2009裁判員制度開始、2010高校無償化開始、2014消費税8%実施、2015TPP成立、集団的自衛権を認める安保法制成立、18歳選挙権を認める選挙法改正などと歴史に残るような出来事が次々と出てきます。また、この間に就活問題の社会問題化、超低金利政策による貯蓄から投資への国民の関心の変化進展、スマホが登場して急速に普及するなどSNSの発達が見られました。グローバル化の進展がより一層進んだことや中国経済の影響が増したことなども見逃せません。

どうですか。「変動の時代」と呼ばれる一片が感じられませんか。上記以外にも医療・健康・福祉・環境・科学技術などに目を向ければもっと多くの変化に気づくはず。もちろん日本だけでなく世界の変化も忘れてならないことは言うまでもありません。年の初めにあたり、こうした時代の流れを読み解きながら、今後の自分のあるべき十年を考えてみてはどうでしょう。

(文責：今井雅)

### 1年の窓

ついこの間高校へ入学したと思っていたら、気が付けばもう1年生も終わりにさしかかっています。単位認定に関わる学年末考査は2月29日開始なので、みんなで一緒に教室で受ける授業は残り僅か7週間ほどです。次の段階に進むための心構えや、学習の蓄積はきちんとありますか？

11月は十数名だった全統希望者模試も、今回は約50名の挑戦がありました。学年全体の意識が高い方へ向いてきた証拠であり喜ばしい限りです。

さて、1月といえばセンター試験の話題を避けては通れませんね。入試改革でセンター試験はいずれ廃止されますが、みんなが受験生をしている頃にはまだ存在しています。センター試験は高校生としての基礎学力を測る試験です。新聞などに問題と解答が翌日掲載されます。現代文・英語・数学①・現代社会・理科基礎はもう挑戦出来るはず。この1年の成果確認のために必ず挑戦してみましょう。

(文責：鈴木)

### 2年の窓

いよいよ皆さんが受験生になる「2016年」がスタートしました。一年後にはセンター試験会場で自分自身が受験している姿、想像できるでしょうか？

さて、そのセンター試験についてですが、もう既に十分に対策ができます。主要三科目の国数英は2年生までに出题範囲を終えますし、理科・社会も今間近に控えた模試(1月の進研記述模試・2月の進研マーク模試)に向けた勉強で本番に即した対策ができます。早めにセンターの過去問などにもふれておきましょう。

ベネッセの資料によると、高2の3学期に入試対策をすると合格率が65%あります。ところが、高3の1学期から入試対策を始めるその率が約半分の37%にまで下がるようです。今からならまだ間に合います。日頃の授業・課題・小テストも疎かにせず、一日一日を大切にしていきましょう！

(文責：立田)

### 3年の窓

いよいよセンター試験、そして一般入試です。これからは学習面の対策も必要ですが、試験本番に向けての「心構え」も大切になってくる時期です。以下のポイントを押さえて、試験に臨みましょう。

#### 試験当日の過ごし方も考えておこう

センター試験当日は、試験開始までの待ち時間の過ごし方も大切なポイントです。参考書やノートなどで最終チェックをしたり、リラックスして待つなど、どんなふうにも過ごせば自分の実力が最も発揮できるのかを、イメージトレーニングして確認しておこう。また、昼食時の気持ちの切り替えも重要です。

#### 優先順位をつけて問題を解くこと

時間を有効に使うためには、問題を解く順番も大切です。解き始める前にすべての設問に目を通し、確実に解ける自信のある設問から解くよう心がけましょう。

#### 自己採点を正確にするために

国公立や私立のセンターのみ及びセンタープラス方式の出願は、センター試験の自己採点結果をもとに決定することになります。自己採点を正確に行うため、受験中は解答番号を問題冊子に必ず控えておこう。

#### 1点も無駄にしないマーク記入ルール

①わからない設問があっても、とにかくすべての設問にマークすること ②訂正をする際には、跡が残らないよう完全に消しゴムで消すこと ③1つの設問に2個以上のマークをしていないかを確認すること ④「記入欄のズレ」などはないか、問題冊子と突き合わせて確認すること。

(文責：竹腰)

## ○文系の窓○

### 地域研究でフィールドワーク？！

文系の研究内容について、みなさんはどれくらい知っていますか？今回から何回かに分けて文系の研究室で研究されていることについて紹介していきます。

さて、フィールドワーク（現地調査）と聞けば理系？文系？そして、何学部を思い浮かべますか？個人的には理系のイメージが強いのですが、もちろん文系でも行われています。今回は文系のフィールドワークについて紹介します。

東北学院大学文学部民俗学専攻のある研究室は、毎年宮城県大崎市にて農村集落の民家を訪ね、地域社会と日々の暮らしの関わりや神社の祭礼などについて調査を行っているそうです。現在は、インターネット等で簡単に既存の知識を獲得することはできますが、イメージを覆す発見がフィールドワークにはあるとのこと。地域を研究するうえではフィールドワークは欠かせない方法の一つです。この他にもこのような研究をしている大学があります。

立教大学 現代心理学部…観光での人と人の関わりを考える観光心理学

立命館大学産業社会学部…接客時の笑顔などの対人サービスを心の労働と捉える

大阪大学人間科学部…個人より集団での作業になると怠けてしまう「社会的手抜き」

（今回紹介した内容は、朝日新聞の「ひらけ進・新・針路」を参考にしました。）

（文責：波勢）

## ○理系の窓○

センター試験が直前となり、2年生は入試まで1年となりました。理系の学部を考えている人は研究費用の面から国公立大学の方が恵まれているので、遠くでも是非国公立大学を狙ってほしいと思います。しかし、国公立の併願校として、または通える範囲を考えている人は、私立大学についてもしっかり知る必要性があります。そこで、理学工学部系の大学（難易度順）や今年の入試状況を取り上げたいと思います。

（取り上げている大学は東海圏の私立大学で、河合塾のデータを参考にしています。）

【生物系】名城大、中部大

・生物系の学科は2大学だけ。その為、他の学部より高い学力が求められる。

【化学・材料系】名城大、愛知工業大、中部大

・生物系と同様に大学数は少ない。上記以外に香りを研究する学科（大同）がある。

【機械・電気電子系】名城大、南山大、中京大、愛知工業大、中部大、大同大・・・

・大学数は多い。今年度中部と大同のランキングが並んでいる。南山及び中京はここ2、3年で学部を拡大しているため、詳しい就職状況が確認できるまでに数年後かかる。名城大学の理工学部は国公立の併願校のため、一部の国公立大学より合格が難しい。

【建築・土木系】名城大、愛知工業大、中部大、大同大、愛知淑徳大、愛知産業大・・・

・大学数は多い。また、2級建築士の受験資格で考えると福祉系のバリアフリーを学ぶ大学（日本福祉）なども存在する。今年度は文系の志望者が増加し（文系12%増）理系が減少したが、建築・土木系の志望者は昨年並みである。（文責：竹腰）

## ☑総合学習の扉☑

今回はゼミ学習で身につけたい力の1つ「人に伝える話し方」について考えてみましょう。

例えば、家族や友人といった少人数のグループではなく、クラスみんなの前に立って話をする機会は、普段どれくらいありますか？人前で話をしたときに、最も多いときで何人の人に対して話をしたでしょうか？・・・人前で話す機会も、そのときの話を聞く人の数も、それほど多くはないはず。

しかし、みなさんのこれからを考えると人前に立って話す機会はどんどん増えていきます。例えば、大学入試や就職試験での面接、大学入学後のゼミにおける発表です。みなさんがどんなに能力が高く意欲があっても、黙っていても伝わりません。また、みなさんの先輩であるAさんは、大学で中学校の教員免許をとりましたが、人前で話すのは苦手だと感じて市役所で働く公務員となりました。ところが、市役所では市のイベント運営を任せられ、200～300人が参加するイベントの司会を担当する機会が多くありました。また、Bさんは、あるスーパーマーケットに就職し、売り上げを伸ばす戦略を練る担当になりました。練った戦略を、自分よりも10歳、20歳年上の先輩を相手にプレゼンテーションで訴え、理解を得て、実践してもらう必要があります。

つまり、どんな仕事に就いたとしても、人前で堂々と話す力、人に分かりやすく伝える力は必要だということです。ゼミでの発表は、将来につながる第1歩になっているでしょうか。（文責：谷）

## ○Book Review○

### 『古代への情熱』

著者 ハインリヒ＝シュリーマン 訳：関 楠生（1977年） 新潮社

皆さんは「シュリーマン」という人物をご存知でしょうか？世界史の教科書には必ず載っている考古学者なので、聞いたことがある人も多いことと思います。『古代への情熱』は、そんなシュリーマンの幼少期から、彼がトロイの木馬で有名な「トロイ」を始めとする古代ギリシアの遺跡を発掘し、19世紀を代表する考古学者になるまでの記録の書になります。

そもそも私がこの本を読むきっかけとなったのは、大学時代の友人が発した一言にあります。その一言とは『古代への情熱』を読んで、一度、考古学者を目指そうとしたんだよねです。たった一冊の本で、考古学を志したくなるものかと私は半信半疑でこの本を読みましたが、読むと初めてその友人の気持ちがわかりました。シュリーマンは幼い頃に読んだホメロスの『イリアス』に感動し、19世紀当時は空想上の都市と考えられていた「トロイア」は実在すると確信し、いつか自身の手で遺跡を発掘することを夢みます。そして、子ども時代の感動を決して忘れることなく、50歳を過ぎてからの発掘で見事にトロイア発見に至ります。私はこの本を通して、子どもの頃の夢を生涯あきらめることなく、ひたむきに挑戦し続けるシュリーマンの姿に感動しました。

考古学で、最も劇的な成功遂げたシュリーマンの波乱の生涯の記録。考古学者になることを追体験できるこの一冊を、一読してみるのをお勧めします。（文責：立田）

